

贖われたロバ

ジェイコブ・プラッシュ

● イン트로ダクション

ろばの初子は羊で贖わなければならない。もし、贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたの息子のうち、初子はみな、贖わなければならない。だれも、何も持たずに、わたしの前には出てはならない(出エジプト 34 章 20 節)

これはユダヤ教で『ペディオン・ハ・ベン (*pedion ha ben*)』——初子の聖別、または初子の贖いと呼ばれているものです。初子はメシアに関する象徴から、御父のひとり子であるキリストを指していると分かります(ヨハネ 1 章 14 節)。初子は銀で贖われました(民数記 18 章 16 節)。贖いの代価はイエスの象徴です。そして先の節ではロバと子羊、そして男の初子がともに登場します。

ただし、ろばの初子はみな、羊で贖わなければならない。あなたの子どものうちのうち、男の初子はみな、贖わなければならない(出エジプト 13 章 13 節)

ここでもロバ、子羊、人間の三つが登場します。この箇所は変わった箇所です。パロの物語の真ん中に儀式的また律法的な戒めが来ているからです。ですが人間について語っている箇所になぜロバも登場するのでしょうか。ここには、ロバが子羊によって贖われなければ首を折らなければならないとあります。

私たちは初子が主イエスの象徴で、人が私たち、そして子羊も主イエスの象徴だと分かっています。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ 1 章 29 節)そして出エジプト記 13 章が過越の祭りに関しての箇所であることから、子羊がイエスを指していることが分かります。人間も子羊も分かりますが、ここでロバが残ります。なぜロバが子羊によって贖われなければならないのでしょうか。

● ロバの性質

ロバはそれほど賢い動物ではありません。いとこ関係にある馬と比べても勇猛な動物ではなく、怖気づく動物です。ですから賢いわけでもなく、勇猛であるわけでもありません。またとりわけ動物学的に、ロバはふしだらです。ロバはその種類を越えて交配し、ロバでない動物ともつがいになります。性的に何とでも交配するのです。この特徴があるため、ヘブル人預言者たちは、偶像崇拜から姦淫まで行うイスラエルを、野生のロバと比べて非難しました(エレミヤ 2 章 24 節、ホセア 8 章 9 節)。

また、荒野に慣れた野ろばだ。欲情に息はあえぐ。そのさかりのとき、だれがこれを静めようか。これを捜す者は苦勞しない。その発情期に、これを見つかることができる（エレミヤ 2 章 24 節）

ロバは欲情に駆られる動物で、賢いわけでも勇猛なわけでもありません。また他の特徴も持っています。ロバについて詳しい人に聞いたのですが、ロバの特徴は特に頑なであるということです。

ですが聖書中にはロバの別の特徴も語られています。ロバの首はかたいという点です。頑固であることを表すヘブライ語のイディオム（慣用句）は『首がかたい』というものです（使徒 7 章 51 節）。旧約聖書で『頑な』という言葉が登場する時、ヘブライ語では『首がかたい』と書いてあります。

責められても、なお、うなじのこわい者は、たちまち滅ぼされて、いやされることはない（箴言 29 章 1 節）

人が首をかたくする（うなじをこわくする）とその首は折られます。滅ぼされて、いやされることはありません。ロバは墮落した人の象徴です。神は背教したイスラエルをロバに比べています。

イスラエルは野生のロバと比べられています。人間とはどのようなものでしょう。イスラエルは人間すべての縮図です。第一コリント 10 章によると、神は人間がどのようなものであるかを教えるためにイスラエルを用いていました。他の国でもイスラエルと同じことを行います。もし神がイスラエル以外の国を選んだとして、それがフィリピン人であっても、ノルウェー人であっても同じことを行っただろうと私は確信しています。教会を見てください。教会はイスラエルと同じ道に逸れて行ってしまっているではありませんか。

繰り返し、繰り返し首を頑なにするとその首は完全に折られます。ロバは愚かで臆病、欲情に支配されて、頑固です。実際、自分を滅ぼしてしまうほど頑固です。それがロバの特徴です。

それはそうとして、ロバは解剖学的にひとつの特徴を持っています。何故か理由は分からないのですが、私自身目にして、ロバを所有するカリフォルニアの牧場経営者からも聞いたのですが、数ある四足動物の中でロバだけが背中に十字の模様を備えています。なぜ神はあのような卑しい動物の背中に十字を付けたのでしょうか。ロバは特段素晴らしい動物でもなく愚かであり、頑固で反抗的な動物なのにです。

● 完全に折られる

ロバはロバでなくなることは出来ません。生まれながらにして愚かで、怠慢、情欲に駆られて（ホルモン代謝によって支配され）、首がかたい動物です。そして元から頑固です。ロバ

を改善することは出来ません。子羊によって贖われなければなりません。ロバに他の望みは無いのです。ロバが子羊によって贖われなければ、首が折られなければならず、それもすぐさま折られました。

私たちも、自分以外の何者になることは出来ません。ユダヤ人であっても、異邦人であっても、黒人であっても、アジア人であっても、ヒスパニックや白人であっても、男か女に生れても、私たちは生れたままの者です。誰も自分が生れる状況をコントロールすることは出来ません。生れる状況をコントロール出来た方がひとりだけいました。ですがその方は私たちと同じ様になり、私たちを贖うために、占領下にあつて蔑まれている人種の中で馬小屋に生れ、また裕福ではない家庭に生まれることを選択なされました。その方だけが生れる状況を選択できましたが、私たちは、選択することは出来ません。

私たちが愚かであることは変えようの無い事実です。私たちは確実に靈的に愚かです。私たちが靈的に怠慢であること、情欲に駆られて、頑固に生れたことを変えることは出来ません。それが人間の状態です。子羊によって贖われなければ何の希望もありません。子羊によって贖われなければ自分自身の頑なさが自分を滅ぼします。うなじのこわい者（頑固な者）はたちまち滅ぼされて、いやされることはありません。

福音を聞き、何度も何度も福音を伝えても聞かない人たちがいます。私の家族の幾人かもそうです。彼らは耳を傾けないので、突然首を折られていやされることはありません。ロバの首が折られるともうロバは死んでいます。もはやいやしも無く、希望も無いのです。そこから地獄への片道切符を渡され、出てくるすべはありません。自らの頑なさが滅びの原因となります。自分自身の不信仰、十字架の拒絶、悔い改めて福音を受け入れなかった態度のゆえに滅ぼされて、いやされることはありません。未信者の人たちが今何を言おうと問題ではありません。私は保証します。未信者は靈を明け渡した瞬間ダーウィン主義者ではなくなります。未信者は無神論者ではなくなり、同性愛者でもなくなります。靈を明け渡すと何者でもなくなります。

人々を頑固にしてしまう一つの原因が宗教です。人は父たちの信仰に固執して、自分の先祖たちが信じていたのだから大丈夫だと単純に考えてしまっています。

● アブラハムの子孫たち

アラブ諸国に関しての聖書の言葉はどうでしょうか。聖書には次のようにあります。

彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟に敵対して住もう（創世記 16 章 12 節）

私は多くの人に福音を伝え、中東にも長年住んでいました。私はいつも、救われるのが最も難しい二種類の人には正統派ユダヤ人とアラブ系イスラム教徒だと言っています。アジア系

イスラム教徒たちはアラブ系よりも比較的容易です。アブラハムの人類学的な子孫は最も困難な人たちです。救いはアブラハムの子孫から来るのだから、アブラハムの人類学的な子孫たち——ユダヤ人とアラブ人はメシアの約束によって救われ易いと考えるのは簡単です。ですが現実には彼らが最も救われにくい人たちです。「彼は野生のロバのような人となり」とはイスラム教の頑なさを表しています。ですがそれに留まりません。イスラエルについてモーセが語ったことを見てみましょう。

知りなさい。あなたの神、主は、あなたが正しいということで、この良い地をあなたに与えて所有させられるのではない。あなたはうなじのこわい民であるからだ（申命記 9 章 6 節）

あなたがたは、心の包皮を切り捨てなさい。もううなじのこわい者であってはならない（申命記 10 章 16 節）

割礼はもちろんローマ人への手紙やエレミヤ書で語られているように旧約聖書における救いの象徴です。「頑なな者であってはならない。信じて救われなさい」というようなメッセージでしたが、人々は受け入れませんでした。

主はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ（出エジプト 32 章 9 節）

イスラエルが頑固であり続けると何が起こるのでしょうか。

今、あなたがたは、自分の父たちのようにうなじのこわい者であってはなりません。主に服従しなさい。主がどこしえに聖別された聖所に入り、あなたがたの神、主に仕えなさい。そうすれば、主の燃える怒りがあなたがたから離れるでしょう（2 歴代誌 30 章 8 節）

神は怒っておられ、罪に憤慨しておられます。神は人間の状態にも怒っておられ、イスラエルとアブラハムのもうひとつの子孫であるアラブ諸国にも怒っておられます。神はアラブ世界に対して怒っておられ、墮落した教会に対しても怒っておられます。神の怒りは溢れ出し、その最後の一滴まで注ぎだされようとしています。ここでの唯一の問題は、誰にその怒りが注がれるかということなのです。頑固になって、信じることを拒む者には神の怒りがその上に注がれます。一方、悔い改めて信じた者に関しては、神の怒りが子羊の上にすでに注がれました。

● 最悪な愚か者

私の人生で会った最悪な愚か者を紹介しましょう。彼は本当に愚かです。私は今でも彼を目にします。特にひげをそっている時や歯を磨いているときです。彼は 16 歳の頃、ヘロインとコカインに浸っていました。生化学の試験のストレスを麻薬によって乗り越えようとしま

した。このようにして大学の単位をとりました。私は不品行で、共産主義者、また自分を滅ぼす者でした。何て愚かな者でしょう。何てばかで、負け犬だったことでしょう。これが私の姿であって、私はロバに他なりませんでした。

なぜ神が人となって、コカイン中毒者のために死ななければならなかったのでしょうか。どうしてか分かりませんが、私のために死んでくださったことは知っています。神の御怒りの深さを理解できないのと同じように、神の愛の深さも計り知れません。

私は『個人的な救い主』という言葉の意味が理解できる前に救われました。私はそれがただ「個人的にイエスを受け入れる」という表現だと思っていましたが、それはただ本来の意味の半分でしかありませんでした。その言葉全体が意味していることは、もし私が唯一罪を犯した者であっても、私たちのだれかが唯一罪を犯した者であっても、ただその一人のためにイエスさまは十字架にかけられることを望むということです。イエスさまはただ私たちすべての救い主であるだけでなく、一人ひとりの救い主なのです。ただ私のため、またあなたのためだけであってもイエスさまは十字架に向われます。

私のしたすべてのこと、私が売ったすべてのドラッグ、(妻以外で)私が寝たすべての女の人、私が吸ったすべてのマリファナ、すべてのコカイン、そのすべてがイエスさまの上に注がれたのです。その愚か者は子羊によって贖われました。私はかつての自分や自分の行いを誇っているのではありません。キリストの命がそのために犠牲にされました。ですが私は自分が行ったことと、イエスさまがして下さったことを否定することは出来ません。誰かがどれだけ成功していようと、どれだけ教養があつて、魅力的であろうと関係ありません。愚か者は愚か者なのです。ロバは子羊によって贖われなければなりません。

それはユダヤ人やアラブ人だけの話しではありません。私たちすべてです。ですが神の民がうなじをこわくした時に何が起こったのでしょうか。

「イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。『見よ。わたしはこの町と、すべての町々に、わたしが告げたすべてのわざわいをもたらす。彼らがうなじのこわい者となって、わたしのことばに聞き従おうとしなかったからである。』」
(エレミヤ 19 章 15 節)

愚か者たちの首は完全に折られます。それはただ個人に対して起こるだけでなく、社会と国々にも起こります。ただ複数のロバに対してなされるだけでなく、愚か者たちの群れに対してなされます。そしてこれがこの国の状態です。情欲に駆られ、頑固で、自分を滅ぼしてしまうほど頭が悪く、現実には目を向けられない愚か者たちの群れです。

これがロバが贖われない時に起こることです。その首は完全に折られます。彼らが死んだ瞬間自分が拒絶したもの、またある場合は侮辱し、見下したものが何であったかを知ります。彼らが拒絶したものは唯一の救いの道でした。本当に多くの人が高慢です。彼らは誰を侮っているかと思っていますのでしょうか。神は侮られるような方ではありません(ガラテヤ 6 章 7

節)。主を恐れることが知恵の初めだとあるので、彼らには知恵がありません（箴言 9 章 10 節）。彼らが死んだその瞬間、その首は完全に折られます。

● バラムの道

ここで別の面を考えてみましょう。今度はロバが子羊によって贖われたケースを見てみましょう。この臆病で、頑固、怠惰で、情欲に駆られ、とりわけ頑なで首がかたい動物が贖われた時です。

彼らは正しい道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したベオルの子バラムの道に従ったのです。しかし、バラムは自分の罪をとがめられました。ものを言うことのないろばが、人間の声でものを言い、この預言者の狂った振舞いをはばんだのです（2ペテロ 2 章 15 節－16 節）

どんな時でも贖われたロバは狂った預言者より良いものです。ロバは贖われると、ブリガム・ヤングやチャールズ・テーゼ・ラッセル、文鮮明の信奉者たちのように愚かではありません。

このロバは警告を与えました。ここでバラムの道と描写されています。彼は不義の報酬を愛した者で、ロバに叱責を受けました。

しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた（黙示録 2 章 14 節）

もちろんバラムはこれをお金のために行いました。バラクは悪魔のようにバラムにお金を与えました。イエスはこの出来事を用いて、偶像の神にささげた物を食べさせる霊的誘惑と偽りの宗教を説明しています。

私たち信者はこれを化体説（*transubstantiation* ミサでのパンとぶどう酒が実際のキリストの体と血になるという考え）と聖体拝領（*Eucharist*）だと分かります。カトリック教会はミサの時にキリストが受肉しているのであって、ただの記念ではなく、原形質的にイエス・キリストであるといい、秘跡としてキリストが再び死なれ、人食い行為的にキリストの肉が食べられると考えています。私はカトリック信者たちが人食いだとは思いませんが、彼ら自身が人食いだと証言しています。それが彼らのカテキズム（カトリック公式教理集）に書かれてあることであり、ミサが人食いの儀式だと考えているのです。バラムはこれをお金のために行いました。こんなことを信じるなんて、どんなにおかしなことでしょう。

いつもこのようなものにはお金が関わっています。どんな宗教であるかに関わりなく、宗教は儲かる商売となっています。どんなカルトであれ、テレビ伝道者であれ、偽りの宗教で

あれ、いつも儲かる仕組みがそこにあります。

一方、贖われたロバはバラムを見抜くことが出来ました。

どうかいま来て、私のためにこの民をのろってもらいたい。この民は私より強い。そうしてくれれば、たぶん私は彼らを打って、この地から追い出すことができよう。私は、あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることを知っている（民数記 22 章 6 節）

ここで悪魔が主と反対のことを言っていることに注目してください。神は『あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう』（創世記 12 章 3 節）と言われましたが、サタンはイスラエルを祝福する者をのろい、イスラエルをのろう者を祝福します。

● 神は怒っておられる

主が怒っておられることを思い出してください。神の御怒りは注ぎ出されます。その怒りは子羊に注がれるか、ロバに注がれるかどちらかです。どちらにしても誰かが代価を払わなければなりません。私が行ったすべての悪い事、あなたが行ったすべての悪い事は誰かがつけを払うのです。

しかし、彼が出かけると、神の怒りが燃え上がり、主の使いが彼に敵対して道に立ちふさがった。バラムはろばに乗っており、ふたりの若者がそばにいた。ろばは主の使いが抜き身の剣を手に持って道に立ちふさがっているのを見たので、ろばは道からそれて畑の中に行った。そこでバラムはろばを打って道に戻そうとした。しかし主の使いは、両側に石垣のあるぶどう畑の間の狭い道に立っていた。ろばは主の使いを見て、石垣に身を押しつけ、バラムの足を石垣に押しつけたので、彼はまた、ろばを打った。主の使いは、さらに進んで、右にも左にもよける余地のない狭い所に立った。（民数記 22 章 22 節 - 26 節）

（未信者はいつも最終的に逃げる余地の無い状態に置かれます。死に際であれ、それより早くであれ、彼らは自分の現実と向き合うようになります。逃げられない状況に置かれ、怒っている神が彼らの前に立たれます）

ろばは、主の使いを見て、バラムを背にしたまま、うずくまってしまった。そこでバラムは怒りを燃やして、杖でろばを打った。すると、主はろばの口を開かれたので、ろばがバラムに言った。「私があなたに何をしたというのですか。私を三度も打つとは。」バラムはろばに言った。「おまえが私をばかにしたからだ。もし私の手に剣があれば、今、おまえを殺してしまうところだ。」（民数記 22 章 27 節 - 29 節）

(バラムがロバと普通の会話をしていることに注目してください。郵便局に行き、救われていない郵便局員と話す時、私たちは贖われていないロバと話しているということを忘れてしまいます。レストランのウェイトレスは贖われていないロバです。私たちの車を直す車の整備士は贖われていないロバです。私たちの歯を磨く歯医者も贖われていないロバです。私たちは彼らが本当にはどのような者か忘れてしまうために、ロバに普通に話しかけてしまいます。私はどこへ行くにも伝道用トラクトを持ち、ポケット聖書を持ち歩こうとしています。未信者の人たちと交わるのが普通となってしまいます。私たちは普通のこととして彼らに話しかけてしまうのです)

ろばはバラムに言った。「私は、あなたがきょうのこの日まで、ずっと乗ってこられたあなたのろばではありませんか。私が、かつて、あなたにこんなことをしたことがあったでしょうか。」彼は答えた。「いや、なかった。」そのとき、主がバラムの目のおおいを除かれたので、彼は主の使いが抜き身の剣を手に持って道に立ちふさがっているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。(民数記 22 章 30 節 - 31 節)

(ヘブライ語でひざまずくことは礼拝行為です)

主の使いは彼に言った。「なぜ、あなたは、あなたのろばを三度も打ったのか。敵対して出て来たのはわたしだったのだ。あなたの道がわたしとは反対に向いていたからだ。ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を巡らしたのだ。もしかして、ろばがわたしから身を巡らしていなかったなら、わたしは今もう、あなたを殺しており、ろばを生かしておいたことだろう。」バラムは主の使いに申し上げた。「私は罪を犯しました。私はあなたが私をとどめようと道に立ちふさがっておられたのを知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」主の使いはバラムに言った。「この人たちといっしょに行け。だが、わたしがあなたに告げることばだけを告げよ。」そこでバラムはバラクのつかさたちといっしょに行った。(民数記 22 章 32 節 - 35 節)

まずここで登場したのは『ある (*an*)』主の使いではなく、『その (*the*)』主の使いです。これはユダヤ教では『メタトロン』として知られています。これはキリストの顕現であり、旧約におけるキリストの現れです。これはペヌエル、ヤボク川のほとりでヤコブが格闘した天使です。そしてイスラエルの前を歩まれていた主の使いです。これは主イエスの旧約における顕現であり、その方が怒られていました。

● 贖われたロバ

いったんロバが贖われると (このロバはすでに贖われていました。そうでなければ首が折られていたからです) 他の者が主を見ることが出来ないときに、主を見ます。未信者の人たちはイエスを見ることが出来ません。私たちは現在、物質的な目を通してイエスを見ることはできません。(クリスチャンは時に、パウロが見たように幻を通してイエスを見ることもあ

るかもしれませんが) 私たちはいつの日にか物質的にイエスを見る時が来ます。そうでなくとも私たちは今イエスの臨在を感じています。未信者の人たちは主を見ることはできませんが、贖われたロバは見るすることができます。

第二に、ロバは臆病な動物ですが別の側面があります。私は一度息子を連れて、グランドキャニオンに行ったことがあります。その時、私の家族はロバに乗って降りて行きました(私はロバに乗りませんが、もし乗っていたならロバが私の体重でつぶれて、私がロバを担がなければならなかったことでしょう)。グランドキャニオンの岩棚はおよそ 1600 メートルの高さで、非常に狭いものです。ロバの足取りが確かなのには本当に驚きました。実際ロバは馬が出来ないことが出来ます。かつて臆病であったものが、今その足取りは確かなのです。ロバはどこへ行くべきか、どこへ行ってはならないかを分かっています。かつて飲酒の問題を抱えていた贖われたロバは居酒屋から遠ざかります。ギャンブラーだった者は競馬場から遠ざかります。ロバはいったん贖われると、どこへ行くべきか、どこへ行ってはならないかを分かっています。

ですが、ロバにはもうひとつの事が起こりました。かつては臆病だった動物が今では勇敢な動物に変わったのです。バラムはロバを打ち続けていました。御怒りが下るのを唯一止めていたのはその迫害されているロバでした。教会が迫害されている国々では、国や社会に下る神の御怒りが忠実な聖徒たちの犠牲によって止められているのです。迫害をも受け入れる贖われたロバは、神の御怒りを遅らせることが出来るのです。

私たちはプロテスタント民主主義の教会に迫害が迫って来ている瀬戸際にいると正直に感じています。アメリカに下ろうとしている神の御怒りを止める唯一のものは、迫害さえ受けることを厭わない忠実な教会です。ですが大半の教会がもはやイエスに忠実でないために迫害を受けることさえしないでしょう。私は教会が迫害されている国々でメッセージをします。私はイスラム教諸国でも講演し、迫害が実際どのようなものであるかを知っています。

● 贖われたロバは見て、話す

バラムは何度もロバを打ち、ロバは話しました。

私は家畜解剖学にあまり詳しくありませんが、人体と同じように、あご骨が話すことを可能にしていると思います。贖われる前、ロバは何も言えません。ロバがすることと言えば、この世の空虚な哲学のように耳触りな声で鳴き、世俗の実存主義や、ダーウィン主義、マルクス主義の弁証法のように耳触りに鳴くことです。贖われ、神がそのあごを支えない限りロバはこれしか出来ません。サムソンはロバのあご骨を用いてペリシテ人何人を殺したでしょうか？(士師記 15 章 15 節-17 節)これがロバが贖われた時に起こることです。神の言葉を話すのです。

そのロバはバラムが主を見ることのできる状況を作り出しました。「あなたがたは証人となる」(ルカ 24 章 48 節、使徒 1 章 8 節)と主は言われました。バラムは彼の上にとどまって

いる主の御怒りを目にしました。「あなたが打ち続けていたロバがいなかったなら、もうわたしの御怒りは下っていただろう」と主は言われました。主は御怒りを他の者に見せるために私たちを用いられます。

それでは神がバラムに言われた最初の事柄は何だったでしょう。神の御口から出た最初の言葉は「なぜそのロバを打つのか」でした。馬から落ちた使徒パウロであるタルソのラビ・サウロが迫害している時、主が最初に言われたことは『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』でした（使徒 9 章 4 節）。「あなたはなぜロバを打っているのか、なぜ教会を迫害しているのか」と主は仰せられたのです。

ロバが贖われるとすべてが変わります。愚かなものが賢明になり、怠惰なものが生産的に、頑固なものが神の御心を受け入れるように、臆病なものが勇敢に、情欲に支配されていたものが人間の理想をはるかに超越したものに動かされるようになりました。これがロバが子羊によって贖われるときに起こることです。

● メシアによる成就

ゼカリヤにはラビたちも認めている、メシアについての預言があります。

シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに（ゼカリヤ 9 章 9 節）

これが預言です。それではその成就を見てみましょう。

それから、彼らはエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来た。そのとき、イエスは、弟子をふたり使いに出して、言われた。「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。」

（そこにはイスラエルと教会を象徴するかのようには 2 匹のロバがいました）

もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。」これは、預言者を通して言われた事が成就するために起こったのである。「シオンの娘に伝えなさい。『見よ。あなたの王があなたのところに来られる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』」

（これらのロバは子羊によって贖われない限り殺されていたことを思い出してください）

そこで、弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにした。そして、ろばと、ろばの子とを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。すると、群衆のうち大ぜいの者が、自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの人々は、木の枝を切って来て、道に敷いた。そして、群衆は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」
(マタイ 21 章 1 節 - 9 節)

贖いを受けたロバは「救ってください、救ってください、ダビデの子よ！」と叫ぶ者たちにキリストとその救いをもたらすものとなりました。

● 結論

これがロバが子羊によって贖われた時に起こることです。臆病者が勇敢になり、愚か者が賢明になり、欲望に駆られていたのが神によって導かれるようになります。正しいものに対して情熱を抱くようになるのです。かつては恐れていたものが、確かな足取りになり、どこへ行くべきか、どこへ行ってはならないかが分かっています。そして主を見ます。ただ耳触りに鳴くだけだったものが、今は主の言葉——神の言葉がその口から出てくるのです。そしてキリストの担い手になり、迫害されることも厭わず、怒っておられる神の裁きを押しとどめることも出来ます。主の救いをもたらすものとなるのです。このために、神はすべての四足動物のうちで、ロバの背にだけ十字を置いたのだと私は確信しています。ロバが子羊によって贖われるとこのようなことが起こるのです。

まだイエスを知らない人がこの文章を読まれているなら、私は「(ロバのような) 愚か者にはならないように」とは言いません。私たちはみな愚か者だからです。それが人間の状態であり、墮落していて、それに神は怒っておられるのです。ですが神は状況を変えられます。私たちは神が首を折らなければならない程悪い者たちです。自分の頑なさが自分を滅ぼします。私にとって望みがなかったように、誰にも望みはありません。ロバに何ができるでしょうか。ロバはロバです。そのロバは首を折られる他望みはありません。あまりに愚かで頑固、欲望に駆られているからです。ひとつの望みを除いてはロバには何の希望もありません。子羊によって贖われなければならないのです。

主の恵みがありますように十十十